

喜入子育てコミュニティ「KADAN」の子育て支援の取り組み

喜入子育てコミュニティ「KADAN」会長(浄土真宗本願寺派 善行寺 坊守、喜入校区社会福祉協議会「子育てサロンてらこや」世話人) 亀井 愛子

はじめに

喜入子育てコミュニティ「KADAN」(かだん)は、鹿児島市喜入地域にて子育て支援を目的に2015年2月に設立した非営利の任意団体である。(以下、「KADAN」と略記。)主に子育て世代向けに、子育て・子育て支援に関する情報提供を行うことを活動の柱としている。そして、子育て世代とのつながりをつくり、地域の子育て支援に関する意識向上につながる交流イベントや対話会を企画・運営している。「KADAN」の設立に至る経緯や目的、そして設立後約3年の間、どのような取り組みを行ったかを紹介する。

1. 団体の概要と活動のきっかけ、ねらい・目的

(1) 団体の概要と活動のきっかけ

「KADAN」は、主に喜入地域の保護者向けに、子育てに関わる情報を得る手助けをすることを目的に設立した。行政や地元の商店・施設、新聞・ネット等のメディアから、喜入地域の「子育て・子育て支援」に関する情報を収集し、保護者目線で咀嚼し、ネットで情報発信している。また、イベントや教養講座などを主催し、子育て世代とのつながりをつくり、子育てに携わる人との交流を支援する。これらの活動は、企業・個人・団体様からの協賛や寄付、そして助成金により支えられている。

KADANの活動のきっかけは、2つの契機による。

まず、会長である私の子育て体験である。2002年、結婚を機に、出身地である宮崎県都城市から、鹿児島県旧揖宿郡喜入町(現鹿児島市喜入地域)へ移住した。地元では幼稚園教諭をしていたが、退職し、新しい土地での生活となった。夫はお寺の住職であり、僧侶の妻「坊守」として、お寺の檀家や近隣のお寺との付き合い、住職の世話等慣れない仕事に追われる日々となった。しばらくして、慣れない土地とお寺という、ある意味特殊な環境での子育てを体験することとなった。

近くには頼れる両親や親戚、友達もいない。私にとって子育ては、思いの外、大変なものだった。当時、「身の置

き所のない強い孤独感」に悩んだものである。そんな状況から、少しずつ地域に友人をつくり、「人が集まれる場所や駐車場があるから」という理由で、お寺で「子育てサロン」を始めた。

そして、この「子育てサロン」での交流や娘の小学校進学が2つ目の契機となる。自分もそうだったが、喜入地域の子育てママの多くが、喜入地域の情報を意外と知らないという気付きがあった。習い事や遊び場、子ども連れで行ける飲食店等の口コミ情報、そして、誰に聞けば良いか、といったことを子育てママたちは日々求めていた。また、小中学生の子どもがいる世代も、学校や地域の役員の仕事や、いじめや受験の相談、スポーツ少年団等の入り方等、子どもの成長に応じて新しい情報を必要としていた。子どもの成長とともに子育ての悩みや子育て支援のあり方も変化していくことを実感した。

さらに、子育てを応援したい地域住民や商店等の方々からも、いろいろな相談や話を聞く機会が増えるようになった。「子育て世代を応援したい」「子どもたちが危険な場所で遊んでいる」「地元の歴史や方言を伝えたい」「子育て応援のセールやイベントを企画したい」等、様々寄せられた。

そこで、「子育てサロン」という地域で子育て支援の仕事に関わることで、子育てサロンの範囲を超えた活動の必要性を感じ、「KADAN」という団体の立ち上げとなった。

(2) ねらい・目的

「KADAN」の活動拠点である喜入地域について少し説明したい。

2004年11月、「平成の大合併」で、旧喜入町は鹿児島市に編入された。鹿児島市市街にも、知覧・穎娃・指宿にも車で30分というとても便利な場所であり、自然の海岸が残り、山にも近く、自然豊かなところである。田舎過ぎず都会過ぎないところや、桜島の降灰の影響が少なく、鹿児島市街にも南薩にも近いため、ベッドタウンとして移住者も比較的多い地域である。

移住者が多いため、子育て世代は、初めての土地である喜入地域の情報をよく知らないという傾向が強い。

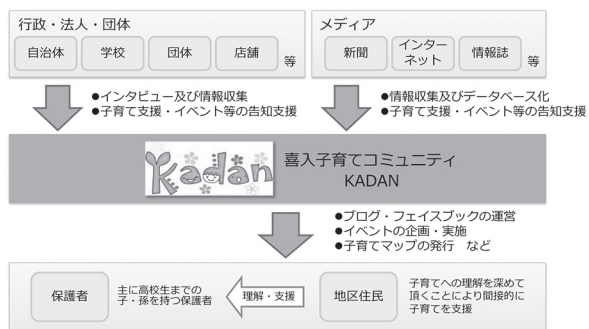
そして、今は鹿児島市に属するが、かつて揖宿郡であっ

たことから分かる通り、地域のコミュニティや団体等の所属区分は指宿市を中心としており、いわゆる“ねじれ”の状態にあった。合併時には特に、鹿児島市にあって喜入地域には無い行政サービスというものがあつた。現在その状況は解消されつつあるが、機能的にまだまだ不十分というのが現状である。

そこで、喜入地域での子育てを支援するため、地域や世代の垣根を越えた、いわば「子育て支援」のプラットフォームの必要性を感じ、「KADAN」では3つの活動目的を設定した。①喜入地域における子育て支援の意識向上、②地域を越えた子育て支援のつながりづくり、③子育て・子育て支援のあり方の探求である。そして、「子育て・子育て支援」という、多くの人々が共有・共感できるテーマをキーワードにすることで、喜入地域の活性化を図ろうと考えた。

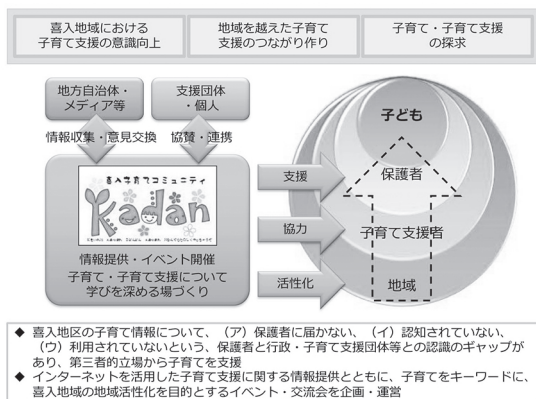
Kadan 喜入子育てコミュニティ「KADAN」
子育て支援の取り組み・活動内容

①子育て・子育て支援に関する情報提供を行っています。また、②子育て世代とのつながりをつくり、地域の子育て支援に関する意識向上につながるよう交流イベントや対話会を実施しています。



喜入子育てコミュニティ「KADAN」紹介資料より抜粋

Kadan 喜入子育てコミュニティ「KADAN」
KADANのビジョン



- ◆ 喜入地区の子育て情報について、(ア)保護者に届かない、(イ)認知されていない、(ウ)利用されていないという、保護者と行政・子育て支援団体等との認識のギャップがあり、第三者的立場から子育てを支援
- ◆ インターネットを活用した子育て支援に関する情報提供とともに、子育てをキーワードに、喜入地域の地域活性化を目的とするイベント・交流会を企画・運営

喜入子育てコミュニティ「KADAN」紹介資料より抜粋

2. 活動紹介

(1) 設立1年目(2014年度)

「KADAN」として最初の目標が、子育てマップの製作であった。喜入地域の子育て世代に、地域の情報を提供するために、最も適したのが子育てマップだった。しかし、このときは実現には至らなかった。当初、「KADAN」は、子育てサークルのときに知り合った、「子育てサロン」の運営にも携わっている仲間数名とで活動を始めた。この時期、資金やノウハウがなかったため、製作を断念することになった。そこで、助成金を得るために、まず実績を作る必要があると考え、イベントを企画することとした。「KADAN」を認知してもらうために、コンセプトとロゴを固めるのに、約1年かけることとなる。なお、ネットで、子育て情報を提供することは可能であったので、当面、ブログやSNS (FacebookやLINE) で、子育て世代向けに情報発信を行うこととした。

『男のためのインターネット講座』

(11/29、講師・栗脇太氏)

一般的に「子育て」というとママが主とされているため、パパや男性をターゲットにしたイベントを企画した。講師は、地元で、パソコン関連の仕事をしている専門家をお願いした。最初のイベントは、企画・運営が未熟だったため、内容的に参加者の方に満足のいく情報提供ができなかったように思う。しかし、昨今、スマホ等の普及により、ネット詐欺は社会問題となっており、また男性向けの企画としての狙いは確かだったと手ごたえを感じた。

『東日本大震災復興支援ドキュメンタリー映画上映会』

(12/5)

「KADAN」設立後、しばらくした後、やっとなこと実現したイベントであった。先の『男のためのインターネット講座』をプレイベントとして、一週間後に立て続けに実施した。SNSを通じて知り合った地域活性化の活動家の方を介し、東日本大震災の被災地での体験を映画化したドキュメンタリー映画の上映会と、被災地にお住まいの方・支援者・映画監督の生の声を聞くことができるトークショーを開催した。大震災後、津波に流され、まちの形がなくなってしまった土地で、地域の絆を取り戻し、人間関係を再構築するというストーリーを通し、大変重要なメッセージを

受け取った。状況は異なるが、喜入地域でも助け合いのコミュニティを復活する契機にしたいとの企画だった。

また映画鑑賞後には、日本赤十字方式の炊き出し訓練も同時に体験した。ビニール袋に米と水を入れ、お湯の中で炊くというやり方は、水道が止まり雨水や海水でも炊けるという事で、災害時の厳しい環境を想像させる方法であった。蛇口をひねれば水が出る、スイッチを入れれば明かりがつく。そんな当たり前の事が、当たり前で無いと言うことを学んだ。そして、この取り組みが新聞で取り上げられ、「KADAN」の団体としての認知度が高まる契機となった。新聞に掲載されたのをきっかけに、地域の商店や子育て支援に関心がある方に協賛をお願いし、活動資金を集める一歩となった。

集めた活動資金を管理するために、団体の印鑑や通帳を作ったのもこの時期である。やっと活動が動き出したことを実感した。新たに仲間を集めたるために、動きを拡大していった。

ただこの時、大きな変化が訪れる。子育てマップ作りのために集まった、いわば“仲良しグループ”だったが、メンバーの中に、情報提供、イベントの企画・運営、喜入地域外の方々との交流等、活動の幅が広がることに賛同できない者も現れるようになった。そこで、皆と話し合い、再スタートを切ることになった。

(2) 設立2年目 (2015年度)

残る者、去る者いて、会長としてはとても辛かった時期であった。年度が変わり、初めて助成金(平成27年度鹿児島県地域貢献活動サポート事業)に応募することとした。

「KADAN」に欠けていた、チラシを作ったり、プロジェクトを運営するノウハウを持った方に仲間に加わってもらった。

活動2年目は、喜入地域及び近隣の地域にて、子育て支援や地域活性化に取り組んでいる団体や個人を対象に、スキルアップを図る機会を提供しようと「子育て支援サポーター養成事業」を企画した。また同時に、「KADAN」の活動目的に賛同する仲間を作ることを目的に活動を行っている。助成金の事業にも無事も採択され、そこで計画した事業を1年間運営することとなった。

「子育て支援サポーター養成事業」は、①合計3つの講



南日本新聞掲載 2014年12月11日

座からなる「子育て教養講座」と、②広告やチラシを自ら作成することができるようになる「イラストレーター初心者講座」(前期・後期)、そして③喜入地域のお祭りでの「子育て・子育て支援」に関するワークショップからなる。

また、それ以外にも、昨年実施した東日本大震災復興支援映画上映会のご縁で、『松本哲也ミニライブ』を開催したり、子育て世代向けのフリーマーケット『KADANマルシェ』(年2回、毎年開催)、KADAN初の出前講座『高校生に赤ちゃんを抱っこさせたい!』(県立顕娃高校訪問)を実施した。

『ネットセキュリティ相談会』(8/21、講師・栗脇太志氏)

前年実施した『男のためのインターネット講座』のふりかえりを行ったことで、イベントとして大成功だった。模造紙を使って、参加者が相談したいことをグループで出し合い、講師がそれに答え、全員と共有するというワークショップ形式としたため、参加者にも大変満足いただけた

「子育て教養講座」チラシ

ようだった。また、地域内のPTA関係者や、小学校中学校の保護者、地域の方々に多く参加頂いた。今まで、子育てサロン等自分が支援してきた未就園児の保護者とは違い、幅広い層の方々と交流が持て、裾野が広がったことを実感した。

ネットセキュリティの分野は、PTAの研修や公民館講座などでも取り上げられるテーマであるが、それとは違い、講師との質疑応答や参加者同士での自由な意見交換が気軽にできて、活発な意見が出されたようであった。普段の研修会では、一方的に話をきくだけなので、KADANの講座では受講者にも、参加した感があったのではないかと思う。ネット・ネットセキュリティの状況は、日々刻々と変わり、保護者よりも子どもの方が上を行き、保護者の知らない間に問題に巻き込まれたりするため、今後もまた取り組みたい。

「おこそ会に学ぶ地域活性化」 (10/3、講師・加藤潤氏)

観光をテーマに地域おこしに取り組み、実績を上げてい

るNPO法人・顕娃おこそ会の取り組みの様子をご講演いただいた。「観光マップ」作りに取り組み始めたときのお話しが、「KADAN」のマップ作りの参考になった。また、「子育て」をテーマに、喜入の地域活性化を目指すこととした「KADAN」には、その取り組み全体が大変参考になった。演者の人柄にも触れ、顕娃の取り組みそのものが興味深く惹かれる内容であった。喜入地域外からの参加者も多く、特に、顕娃在住の参加者とのつながりができ、今後の活動にも大きく影響を受けることとなった。

「勉強って必要？」 (10/25、講師・上野晋太郎氏)

《ラサール→東大→数学カフェ》という異色の経歴を持つ講師をお招きし、親として、学歴や仕事に対してどのような価値観を持って子どもと接すべきかを学ぶ機会として企画した。これまでの学歴や仕事への価値観が今後は通用しない時代が来る可能性が高いと言われている中、学校教育は昔と変わらない現状を背景に、子どもと保護者が、いろいろな考えを持つ大人に会う機会を作りたいということが背景にあった。

この講演を開催することで、「喜入は何もないではなく、作り出せば何でもできる！」という考えに触れることができた。参加した保護者はもちろん、子どもたちも、講師の話に聞き入っていた様子で、今後も、いろいろな大人に出会える機会を作っていきたい。

一連の『子育て教養講座』を実施できたことで、地域住民や行政の関係者に対し、「KADAN」の認知度や信頼性を高めるきっかけになった。そして、喜入は《地域全体でママ応援》という見出しで新聞に取り上げていただいた。さらに、「リビングかごしま」誌の『きらり女性大賞』に応募し、優秀賞を受賞することで、「KADAN」への信頼が増したように思われる。

『イラストレーター初心者講座』 (前期 6/8～7/6<全6回>、後期 11/9～12/14<全5回>、講師・有馬亮氏)

(3) 設立3年目 (2017年度)

前年に引き続き、助成金への応募を行った。3年目は、鹿児島市の「平成28年度市民とつくる協働のまち事業」と、鹿児島県の「平成28年度鹿児島県地域貢献活動サポート事

ロコミでサークル活動を広めてきたけれど、
参加者がなかなか増えない・・・↓↓↓
活動にナウなヤングを呼び込みたい！
喜入ファンを増やしたい！

イラストレーター初心者講座

開催日程 6月8日～8月上旬 全6回 各回19:00～21:00

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 受講料 500円 ※先着20名 | 第1回 6/8 子育て情報などの発信の仕方 |
| 善行寺(☎345-0032) | 第2回 6/15 イラストレーターの基本的な使い方 |
| 場所 鹿児島市喜入町259 | 第3回 6/22 } チラシやロゴの課題に挑戦！ |
| 主催 喜入子育てコミュニティ | 第4回 6/29 } |
| KADAN | 第5回 7/6 オリジナルのチラシやロゴを作るう |
| | 第6回 未定 SNS・ネットセキュリティ |

※受講にはノートパソコンを御持参ください。参加には申込が必要です。

お申込＆問合せ先： **KADAN事務局**

ロコミでサークル活動を広めてきたけれど、
参加者がなかなか増えない・・・↓↓↓
活動にナウなヤングを呼び込みたい！
喜入ファンを増やしたい！

後期

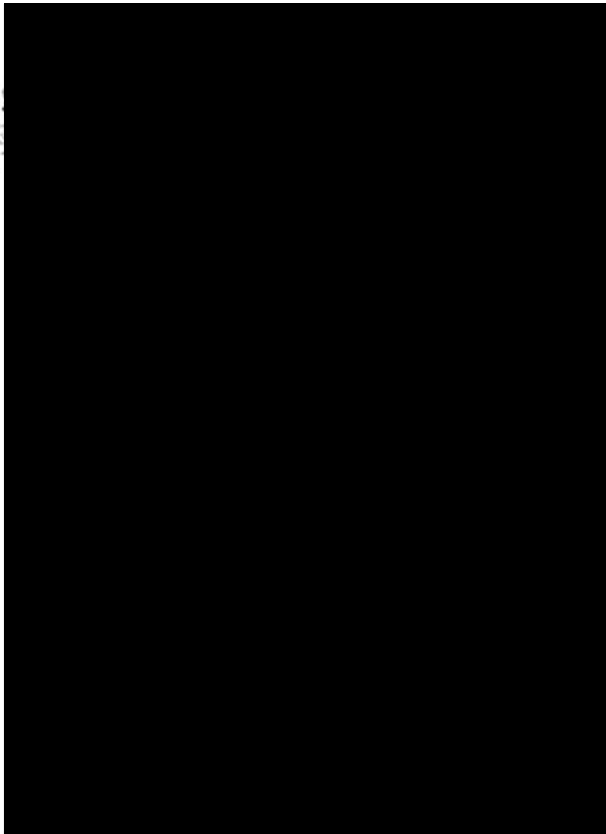
イラストレーター初心者講座

開催日程 11月9日～12月14日 全5回 各回19:00～21:00

| | |
|----------------|---------------------------|
| 受講料 無料 | 第1回 11/9 イラストレーターの基本的な使い方 |
| 善行寺(☎345-0032) | 第2回 11/16 } |
| 場所 鹿児島市喜入町259 | 第3回 11/20 } チラシやロゴの課題に挑戦！ |
| 主催 子育てコミュニティ | 第4回 12/7 LINEスタンプ作成に挑戦！ |
| KADAN | 第5回 12/14 } |

※受講にはノートパソコンを御持参ください。参加には申込が必要です。

お申込＆問合せ先： **KADAN事務局**

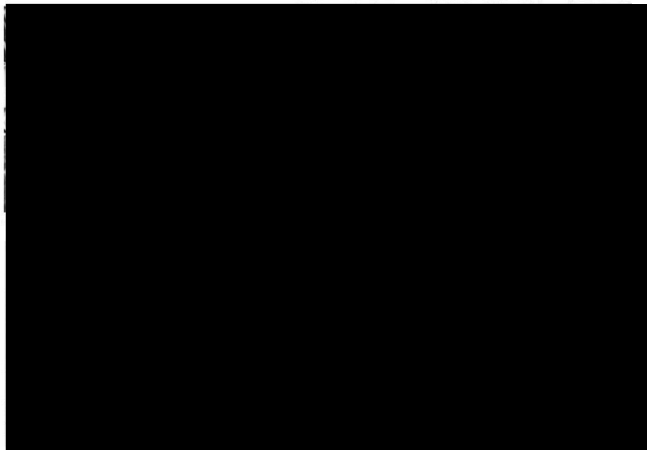


リビング鹿児島掲載 2016年1月号

「イラストレーター初心者講座」チラシ



「高校生に赤ちゃんを抱っこさせたい！」の様様



「地域貢献活動サポート事業」活動報告書への掲載

業」の両方に採択された。前者は「喜入地域の伝承を紙芝居で語り継ぐプロジェクト」を、後者は「子育て支援フォローアップ事業」として、①子育てお悩み解決ワークショップ、②子育て情報交換会、③喜入子育てマップ製作、④喜入子育て未来会議を実施した。

「喜入地域の伝承を紙芝居で語り継ぐプロジェクト」

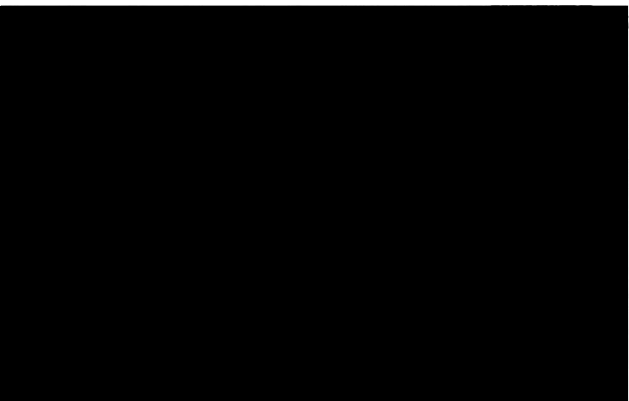
(4月～11月)

3年目、特に力を入れ地域の方を巻き込んで取り組んできた「喜入地域に残る伝承を紙芝居にしよう」というプロジェクトである。これは前年開催した「おこそ会に学ぶ地

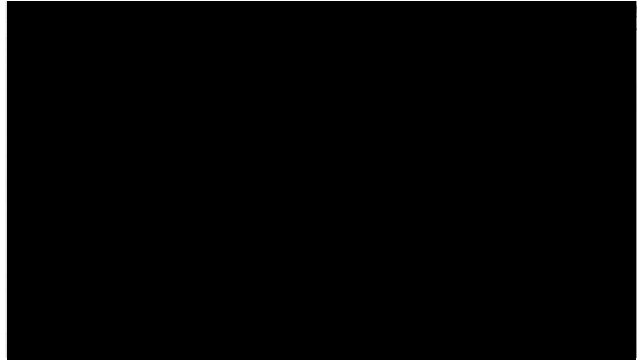


南日本新聞掲載 2015 年 12 月 15 日

域活性化」の講演会に参加された地元の方が、喜入地域に残るお話を子どもたちに伝えていきたいとの申し出があり、「KADAN」のプロジェクトとして1年かけて取り組んだものである。現地視察に行くイベントやお話しの絵をパステル画で描くワークショップなど、多くの地域住民や、関心のある子ども・保護者を巻き込んでいった。完成した紙芝居を、地域のお祭りや文化祭で披露したりと、地域活性化にもつながった。紙芝居の原画は、喜入在住の画家の先生に描いて頂き、お話しも地域の方と粗筋を膨らまし、喜入弁を取り入れるかの検討を行うなど、地元の活動家との連携も実現した。世代を超えた地域住民と子どもたちとの交流を持てた、本当に素晴らしい取り組みとなった。でき上がった作品は、喜入公民館・図書室に寄贈し、鹿児島市内であれば貸し出し可能となっている。



南日本新聞掲載 2016 年 7 月 20 日



南日本新聞掲載 2016 年 10 月 31 日

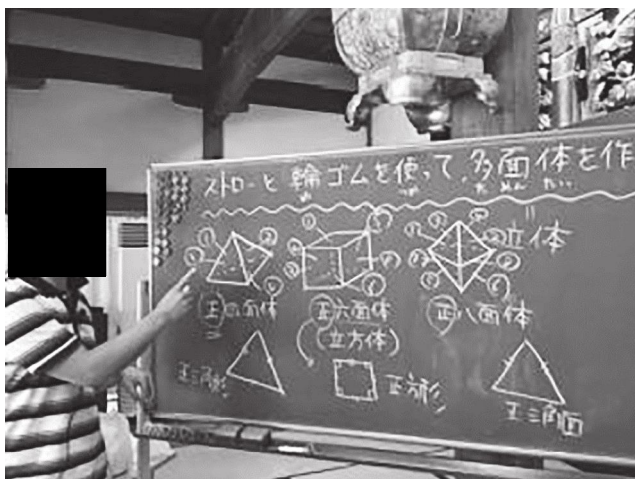
子育てお悩み解決ワークショップとして、夏休み応援お助け大作戦（「出張数学カフェ in喜入」、「喜入の魅力発見プロジェクト」と、「KADAN教養講座～魅力的な学童クラブであるために～」）を実施した。



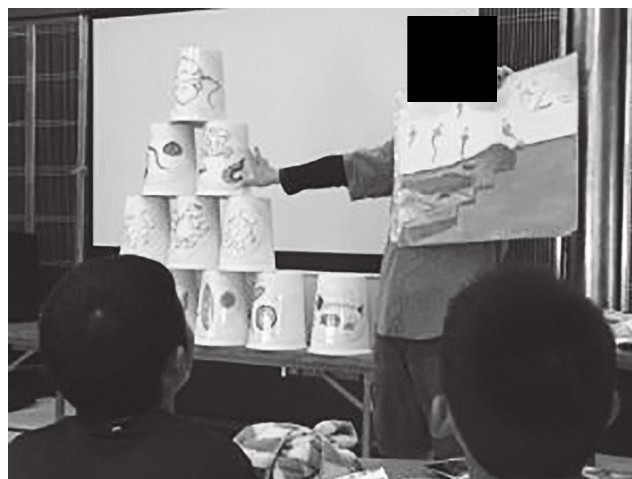
「夏休み応援お助け大作戦」チラシ

「出張数学カフェ in 喜入」(7/21、講師・上野晋太郎氏)

前年の「子育て支援サポーター養成事業」では、主に子育て支援者や地域活性化の活動家を対象としていたが、子育て世代とのつながりをつくり、子どもや保護者に寄り添い、子育て支援の実感を持ってもらうことをテーマに「子育て支援フォローアップ事業」に取り組んだ。その中で、「子どもが中学生になり、特に数学でつまづいて悩んでいる。教えてあげるにも、なかなか難しくてできない。どうしたらいい？」という保護者との会話から、小学生低学年から中学生までの算数・数学の悩みに応えるという勉強イベントを開催した。また、昼間は、お寺の研修室を子供たちの自習室に開放したところ、保護者に大変好評だった。子どもが夏休み等の長期休暇の間、安心して任せられる場所が欲しいというニーズを改めて確認した。



「出張数学カフェ in 喜入」の様様



「喜入の魅力発見プロジェクト」の様様①



自習室開放の様子



「喜入の魅力発見プロジェクト」の様様②

「喜入の魅力発見プロジェクト」 (8/7、講師・浜本 麦氏)

「喜入は自然に恵まれているけど、自分が自然の中で遊んだ経験がなく、どこでどんな遊びを教えていいかわからない？」という保護者との会話から生まれたのが、錦江湾・喜入の海の魅力や生き物の生態を考える「喜入の魅力発見プロジェクト」であった。喜入の海で生き物観察をした後、食物連鎖について学び、最後に地元で獲れた魚を食べ、子どもたちには得難い体験となった。

「KADAN 教養講座～魅力的な学童クラブであるために～」

(10/3、10/19)

「子育てお悩み解決ワークショップ」として、絵本作家サトシンさんの講演をお聴きする前段として、地域の児童クラブの指導員・保護者等で、ワークショップを開催。児童クラブの現状と課題、そして理想について意見交換を行った。そして、『あるひ、いつものがくどうで。』という学童の絵本を出版し、全国の学童を丹念に取材されている絵本作家サトシンさんに、講演をしていただいた。当日は、10/3に開催した事前ワークショップで出されたサトシンさんへの質問に、全国の学童クラブ指導員さんからお答えいただき、「学童クラブのお悩み解決ヒント集」として参加者に配布した。

子育て情報交換会 (7月～12月)

子育てに関する環境・意識の向上のために、子育てに関

心のある保護者・子育て支援者が意見を交える場が必要だ
と思い、緩やかな「子育て情報交換会」として開催した。
民生委員や保健センターの保健師、保護者など、垣根を越
え、毎月1回のペースで開催した。参加者からは、「日頃
相談できないことや、改善して欲しいことについて話をで
きる機会があって良かった」と好評だった。

「喜入子育て未来会議」(1/22)

「子育て・子育て支援」をテーマに、「喜入子育て未来会
議」として実施した。これからの喜入地域の子育ての展望
を、中学生から、子どもを抱いたママ、そして70代まで、
幅広い年代の地域住民と、喜入外から、遠くは東京からと、
多様な参加者が意見を出し合った。最後にそれぞれがス
ローガンを発表し、「喜入子育て未来ビジョン」を決定した。
参加者からは、「KADANの活動を誇らしく思う」「喜入地
域を子育てのまちにしよう！」等、地域の子育て意識の向
上を肌で感じる事ができた。



「喜入子育て未来会議」の様①



「喜入子育て未来会議」の様②

「喜入子育てマップ」(9月～12月)

子育て中の母親19名を中心に、「喜入子育てマップ会議」
を運営し、念願の「喜入子育てマップ」を完成させた。マッ
プは、児童クラブや育児サークルなどジャンルごとに分け、
喜入地域の6つの地区ごとに色分けし表示させた。参加者
からは、「いろいろな人とのつながりができて楽しかった」
「行ったことがない場所もあり発見が多かった」等の感想
があり、現役子育てママと先輩ママをつなぐ手段としても
今後期待ができる。



完成した「喜入子育てマップ」



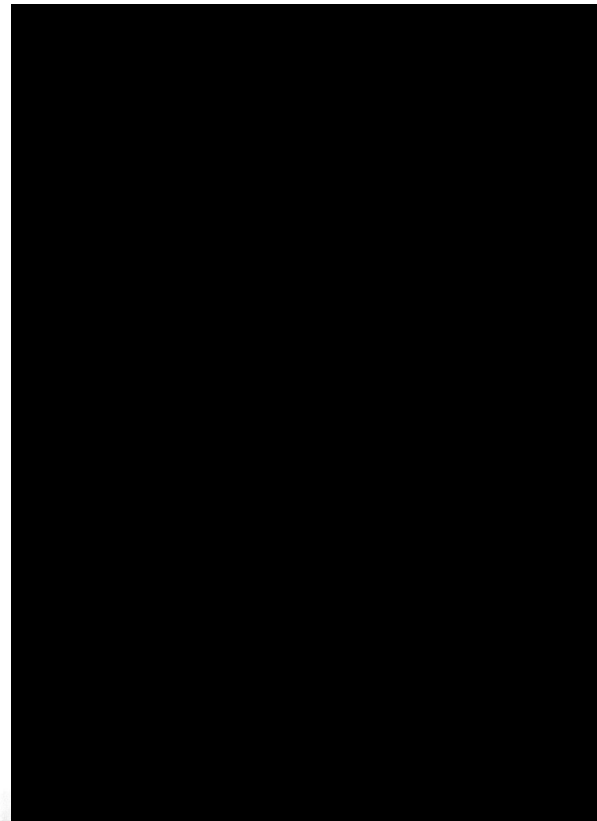
熊本地震・被災者支援活動の様相



南日本新聞掲載 2017年1月30日

熊本地震・被災者支援活動

助成事業として採択された事業以外にもいくつか活動を行っている。その中で、特筆すべきは、4月の熊本地震の被災者、特に子育て世代向けの物資輸送を行ったことがあげられる。1年目の団体発起イベントでのつながりで、東日本大震災の震災支援をした方からの支援要請があった。子育てコミュニティだからこそ、「赤ちゃん用の紙おむつ、粉ミルク、生理用品の物資支援をお願いしたい」との依頼に対し、日頃から、SNSなどで情報発信をしていたことで、



南日本新聞掲載 2016年5月30日

次々に物資提供があり、地震発生から1週間以内に、トラック3往復分の物資を送り届けることができた。子育て中のママたちが、想いを行動に移し被災地支援ができたという経験は、今後の支え合い、育児への意識がグンと高まった瞬間だった。現地では赤ちゃんのSサイズのオムツがなく、それを持って行った瞬間歓声があがったと、ボランティアのドライバーから聞くことができた。また、KADANマルシェでは、熊本地震震災支援チャリティー企画を実施した。不要になった子ども服やおもちゃなどを提供して頂き、それを袋に詰め放題500円とし、売り上げの全額を義援金として寄付することもできた。

「第1回理系フェス！」

そして2017年2月には、「KADAN」のイベントの講師としてご協力いただいた上野晋太郎氏と浜本麦氏等と一緒に、「第1回理系フェス！」を開催した。「喜入でイベントを開催したい」との申し出をいただき、短期間で実現した。「子育てのまちに！」と旗を振っているが、子育て支援につい

て、地域格差を実感することもあった中、このような企画が実現したことで、新しい子育て支援の可能性を感じた。

3. 参加者の様子や感想、成果と課題、地域の変容

(1) 参加者の様子や感想

「KADAN」を設立し3年が経過した。最初は、自分が好きなこと・できることをとということで始めた、「子育て支援」の活動だったが、活動を支えるメンバーと語り合い、活動を通して知り合った方々と交流するなどして、自分の視野やものの見方にも大きな変化があった。イベント参加者からは、「参加して良かった」「また次回も参加したい」と、おおむね肯定的なご意見が寄せられ、ほっとしているところであるが、そんな中、「気があった」、「もっと対話が必要だ」、「行動につなげたい」という積極的な声が最近多くなり、活動へのやり甲斐がさらに増してきた。

(2) 成果と課題

「KADAN」の活動の成果として、《①団体の認知度向上、②子育て支援に対する地域住民の意識の変化、③イベント活動を通じ、ネットワークが広がったこと、④本日のように、講演会等に呼ばれる機会も増え、情報発信ができるようになったこと、⑤これまで接する機会がなかった世代や地域の方とのつながりができた》、があげられる。その反面、《①子育て意識の向上と同じように目標に掲げている「子育て環境の整備・向上」には、まだ成果の兆しすらない、②地域ぐるみの子育て支援に理解を示してくれる人がいる他方、自分の子育ては終わったので、自分には関係ないという方や、まったく関心がないという方のご意見も聞く必要性を最近感じるようになった、③喜入地域外から、子育て・子育て支援に関心のある人を喜入地域に来て頂く機会を作り、子育て・子育て支援を探求する場を作りたい、④子育て・子育て支援について学びを深めるために、勉強会や研修等にも参加したい、⑤一緒に活動をしてくれる仲間を増やす必要がある》という課題が見えてきた。

(3) 地域の変容

私個人の感想だが、地域の方、KADANの活動に関わった方からは、活動への共感や喜びの言葉を寄せられるようになり、活動が地域に受け入れられ、変化の兆しが顕れてきたと感じている。具体的には、《①喜入地域内、支所、公民館、民生委員、小中学校の先生・PTAの間で、私自身、

子育て支援の活動を行っている者として認知されるようになり、「KADAN」の活動も大変しやすくなってきた。②新聞に活動内容が取り上げられるようになったことで、一般の個人の方にも、「喜入のために頑張っ！」と声をかけられることが多くなった。③「最近、喜入も、子育て支援への動きが活発になってきた！」との民生委員の言葉に、地域の子育て支援に対する空気が変わってきた、④「今は自分の子どもの子育てに一生懸命だが、いつか将来、喜入の子育てに貢献したい」と発言してくれるママが現れてきて、子育てママたちが、子育てを支援し合おうという意識になってきた。》などがあげられる。

最後に

以上、「KADAN」の設立に至る経緯や目的、そして設立後約3年の間の活動について述べさせていただいた。「KADAN」の達成したいビジョンとして、①喜入地域における子育て支援の意識向上、②地域を越えた子育て支援のつながり作り、③子育て・子育て支援の探求」を掲げているが、今後活動を続けていく上で、「活動を地道に続ける事」、「一人一人との付き合い、親子・支援者とのつながりを大事にする事」、「信頼関係を大切にし、活動を丁寧に行う事」が必要である。そして、「活動を支える仲間への尊敬」、「支えてくれる家族や友人の気持ち」、「応援して下さる方の感謝」を忘れないよう、今後も頑張っていきたい。